

県統計協会名誉会長 表彰



↑表彰された横山仁一さん(左)と関場昭子さん(真ん中)

広野町の県統計協会名誉会長表彰の伝達式は1月27日(金)、役場全員協議会室で開催されました。遠藤町長が名誉会長表彰を受賞した関場昭子さんと、横山仁一さんに表彰状を手渡しました。遠藤町長は、「統計調査は、避難生活から帰還を捉え、町を守る大きな力となっております。これまでのご努力に心より感謝いたします。」とあいさつしました。この表彰は、国勢調査などに7年間従事したことにより受賞したものです。

Jヴィレッジ開業25周年記念式典を開催



↑あいさつをする遠藤町長

Jヴィレッジ開業記念式典が1月25日(水)、Jヴィレッジで開催されました。第1部では、(株)Jヴィレッジ取締役の宮本 恒靖氏による講演会などが行われ、第二部の「感謝のつどい」では、遠藤町長が「Jヴィレッジはこの地域の誇りです。ともに力を合わせ、復興・創生の実現に向けて邁進してまいります。」と立地町としてあいさつしました。Jヴィレッジは、1997年7月に日本初のナショナルトレーニングセンターとしてオープンし、2022年7月で25周年を迎えました。

平井元喜さんを夢大使に委嘱



↑委嘱状交付式の様子

広野夢大使委嘱状交付式が2月15日(水)、全員協議会室で行われ、広野町ゆかりの童謡「とんぼのめがね」を作曲した故・平井康三郎さんの孫でロンドンを拠点にピアニスト・作曲家で活動している平井元喜さんを広野夢大使に委嘱しました。平井さんは、「音楽には、国境、文化を超えて世界とつながれる力がある。音楽を通して、広野町子どもたちの人材育成に役立ちたい。」と語りました。任期は、2月15日から3年間となります。

第11回 ふくしま学(楽)会を開催



↑あいさつをする遠藤町長

ふくしま学(楽)は1月29日(日)、大熊町交流施設linkる大熊で開催され、開会に先立ち、遠藤町長があいさつしました。研究者や復興支援に取り組む団体の関係者らが参加し、福島復興の基本理念である創造的復興についてや浜通りで働く意義について議論しました。世代を超えて、地域を超えて、分野を超えて、福島復興と廃炉について共に考える「対話の場」として、これまでふくしま学(楽)を10回開催しております。

断熱DIYワークショップ 事前セミナーの開催



↑セミナーの様子

断熱DIYワークショップセミナーが1月27日(金)、広野町公民館で開催され、オンラインを含めて県内外から約40人が参加しました。住宅断熱の推進で町民の健康を守るとともに、味わいのある古い空き家を自分の手で快適に改修し、県外からの移住者に活用してもらうために町が主催しました。この日は、「エネルギーまちづくり社」の大川三枝子さんが断熱改修の重要性を説明しました。2月18日、19日の2日間、実際の空き家を使った実践形式のワークショップを行い、断熱改修の理解を深めました。

ふたばカップが13年ぶりに開催



↑参加した選手たちとの集合写真

11歳以下の児童によるサッカー大会「ふたばカップ」が1月21日(土)と22日(日)の2日間、2010年以来、13年ぶりにJヴィレッジで開催されました。開会式には、遠藤町長が出席し、「ふたばカップに参加された選手の皆さんには、これからもっともっと成長していただき、将来、ここJヴィレッジで、大きく活躍されますよう期待をしております」と挨拶しました。県内の16チームがリーグ戦とトーナメントで熱戦を繰り広げました。

ひろの未来スピーチ部との交流会



↑スピーチ部に参加した児童たち

ひろの未来スピーチ部との交流会が1月19日(木)、広野町文化交流施設「ひろの未来館」で開催されました。ひろの未来スピーチ部は、子どもたちに対話を通じたコミュニケーションの大切さを学ぶため、昨年6月に発足し、講師には中国の湖南師範大学の特任教授である笈川幸司さんが務めています。今回は、児童10名が参加し、本年度の活動の振り返りとして遠藤智町長から町民との会話や対話の中で心がけていることなどを学びました。

純米酒「奥州日之出の松」完成を報告



↑完成報告をする鈴木正範さん(左)

広野町の地酒をつくる会代表の鈴木正範さんが2月2日(木)、広野町役場を訪れ、純米酒「奥州日之出の松」の完成を遠藤町長に報告しました。「奥州日之出の松」には、広野産特別栽培米コシヒカリが使用されており、米の消費拡大、原発事故に伴う風評被害払拭、新たな特産品開発を目的として生産され、今年で8年目となります。鈴木さんは、「さらなる町の知名度アップに貢献していきたい」とあいさつしました。